

オレハジ通信 Vol.①

佐々木まゆみ市議会活動レポート

2011年12月発行

発行元／仙台市議会公明党市議団 仙台市議会議員佐々木まゆみ
仙台市青葉区国分町3-7-1 TEL022-214-8718 メールアドレス sasaki@sendai-komei.jp

温かいご支援にお応えするため、 地域の復興・発展へ全力で取り組んでまいります。



8月28日の仙台市議会議員選挙におきまして、みなさまの温かな力強いご支援のもと初当選させて頂き、晴れて市政の場に届けて頂きました。本当に本当に有難うございます。

当初、4月の予定だった統一地方選挙。

あの3.11東日本大震災の影響で状況は一変しました。

私も、候補者として3.11以降、被災された方々が避難されている学校や地域の集会所等に足を運び、皆様の顔を見、逆に声を掛けて頂き勇気を頂きました。

寒い中・雪の中、そして、暑い中・雨の中、支持者の皆様、党員の皆様には長きに渡り支援の応援をして頂き、本当に感謝しております。

皆様と共に築き上げたドラマを原点に、私の活力として参ります。

震災から早、9ヶ月。課題は山積みですが、被災された方々はもちろん、みなさまが安全、そして安心して暮らせる街づくりの為、全力で取り組んで参ります。

そして、何よりも地域の声、現場の声を大切に働いて参ります。

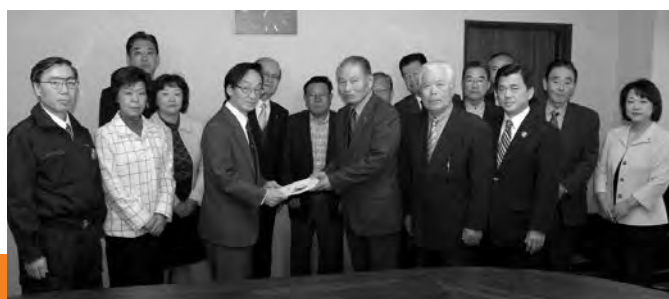


仙台市へ鶴ヶ谷市民センター等に関する陳情書を提出

10/14、鶴ヶ谷市民センターの早期建設に関する陳情書を提出。全壊となった鶴ヶ谷市民センターは、当初の方針では再整備事業に伴ない鶴ヶ谷2丁目への移設でしたが、震災で一変。現状での再建を地元連合町内会長・社会福祉協議会会長等が強く要望。

また、10/26には東部地域の方々が集団移転に関し、現状の場所での生活再建を求め陳情書を提出。

共に、私も同席させて頂きました。



がれき焼却場を視察

10/18、公明党仙台市議団にて蒲生にある仮設焼却施設へ視察を行いました。地震及び津波により発生した震災廃棄物(流出した家屋・家財、自動車、倒木等。以下「がれき等」という)の処理を”発生から1年以内の撤去、3年以内の処理完了”を目標に取り組んでいます。三か所の仮設施設において、1日480t焼却処理を行い、バグフィルタ等の排ガス処理設備を設け、ガスオキシン類等の排出を極力抑制しております。

また、被災自動車保管場所にはアスファルト舗装、廃家電保管場所には遮水シートを敷設するなど周辺環境に配慮した取り組みも行っております。



初の一般質問 幸町・鶴ヶ谷市営住宅の復旧などについて質問しました。

平成23年9月30日 仙台市議会 一般質問

佐々木まゆみ 質問: 応急仮設住宅の民間借り上げ制度について。民間賃貸住宅世帯は約8,300世帯あるが、プレハブ応急仮設住宅と異なり社会からの情報が不足しがちで避難所にいた時よりも支援が遠のいてしまっていることが強く懸念されている。家電セットもなかなか届かないとの声もあり、支援を早急にすべさと思うがどうか。

答弁 奥山仙台市長: 本市が調達した生活必需品については、借上げ民間賃貸住宅やプレハブ仮設住宅の区別なく同様の品物を支給しているが、寝具に関しては民間企業等から無償提供されており提供者の意向に沿って、プレハブ仮設住宅等の入居者に配布している。また、家電セットについては現在配送まで1ヶ月を要している状況なので、円滑に配送されるよう、引き続き日本赤十字社に働きかけていく。

佐々木まゆみ 質問: 公明党仙台市議団が行った「仮設住宅に関するアンケート調査」では、玄関の庇(ひさし)が短い、物置や下駄箱の設置、敷地内の排水を改善、手すりの設置個所の増設などの回答が寄せられた。さらに将来の不安について「この仮住まいにはいつまでいられるのか」「2重ローン・仕事への不安」そして、義援金・支援金の支給が滞っていたことなど切実な声が寄せられた。現時点での改善状況はどうなっているのか。

答弁 市長: 庇(ひさし)については現在の65cmから約120cmに延長する工事に着手しており、10月中には完了したい。敷地内が冠水する状態にある箇所の改善も検討しており、早期に改善工事に着手したい。手すりは入居者からの要望に応じて随時対応していく。

佐々木まゆみ 質問: 仮設住宅の寒さ対策についてはどうか。

答弁 市長: プレハブ応急仮設住宅には、一般の住宅と同程度の断熱材が入っているが、さらに二重窓ガラスへの交換や外部に面している鉄骨の柱の被覆などの断熱対策のほか、フローリングとなっている部屋への畳の設置について検討を行っている。

佐々木まゆみ 質問: 一人暮らしの人達の孤独死や自殺の増加が懸念される。あの大地震と大津波をくぐり抜けた命が、ここにきて孤独死や自殺といった形で消えていくのは非常に残念で淋しい。「生きる為の支援」「顔の見える支援」が不可欠と思うがどうか。さらに仮設住宅でのコミュニティ作りへの取り組みはどうか。

答弁 市長: 市としてNPOと連携して「安心見守り協働事業」を行い、「絆支援員」が入居者の皆様を訪問・声がけし、孤独死につながりかねない孤立化の防止や日常の困りごと相談に対応していただいている。加えて周辺地域の皆様やボランティアの方々などと協力しながら、集会所でのお茶会などを開催し、コミュニティにおける顔の見える関係づくりや、生きがいづくりの支援にも努めている。

佐々木まゆみ 質問: 市営住宅の復興について。震災で宮城野区の幸町高層・鶴ヶ谷の5A26棟が全壊。その多くが鶴ヶ谷・高砂・田子・小鶴等の市営住宅の空き部屋に移られた。しかし4月7日深夜の余震により、鶴ヶ谷の9階高層は全壊となった。



せつかく引っ越しをされたに、追われるようにまたも引っ越しされた方もいる。復興住宅として急いで完成させるべきではないか。また幸町高層に関しては再建との事だが、現時点での計画はどうなっているのか。

答弁 市長: 鶴ヶ谷第二市営住宅高層棟については、160世帯を超える多くの入居者が移転することなく復旧できる方法を検討してきた関係もありこの検討に時間を要してしまった。このたび復旧方法がまとまったので、10月中旬に説明会を行い、その後すみやかに工事に着手し、来年度当初には工事が完了するよう取り組んでいく。幸町市営住宅の高層棟は、本年度中に設計を終え、来年度建設工事に着手、平成25年度中には新しい建物を完成させる予定となっている。

佐々木まゆみ 質問: 豪雨対策について。9月24日の台風15号では、宮城野区東仙台でも土砂崩れが起きた。床上浸水45棟・床下浸水160棟はじめ崖、土砂の崩落など震災で被害を受けた地域がさらに被害を受けた。地震被災地への応急修理すら思うようにできていないでいたことが台風によって被害を広げたことは歪めない。今後の対応はどうか。

答弁 市長: 地震被害を受けた宅地については降雨時などパトロールを行い、著しい変状が認められる箇所については、シートで覆うことや大型土嚢設置などの応急的な措置を行ってきた。東仙台一丁目については、4月に被災宅地危険度判定を行い、注意喚起をしてきたところだった。今回、擁壁崩壊直後には周辺住民も含めて避難を勧告し安全確保に努めた。今後とも、被災宅地に恒久対策が行われるまでパトロールを行い、現場状況の把握に努め、必要に応じた適切な対応を行っていく。

【決算等審査特別委員会】

市民センターの再開について質疑。

中でも全壊となった鶴ヶ谷市民センターの建替について出された陳情書について、地元の皆様と充分意見交換をさせていただきながら、一日も早く再開できますよう、事業の着実な推進に努めてまいります、との答弁を頂きました。

【経済環境委員会】

11/21に東部地区農地(復旧・復興について)、高砂南部排水機場(復旧状況)、蒲生がれき搬入場(状況及び仮設焼却炉の稼働状況)の視察を行いました。

【次世代育成調査特別委員会】

子育て支援を大きくサポート出来る体制作りのため、取り組んでいきます。皆さまからのご意見・ご要望も反映して参りますので、お声掛けの程、宜しくお願い致します。